



アカアマダイ  
日本海西・九州北西部  
令和4年度資源評価結果

# 生物学的特性

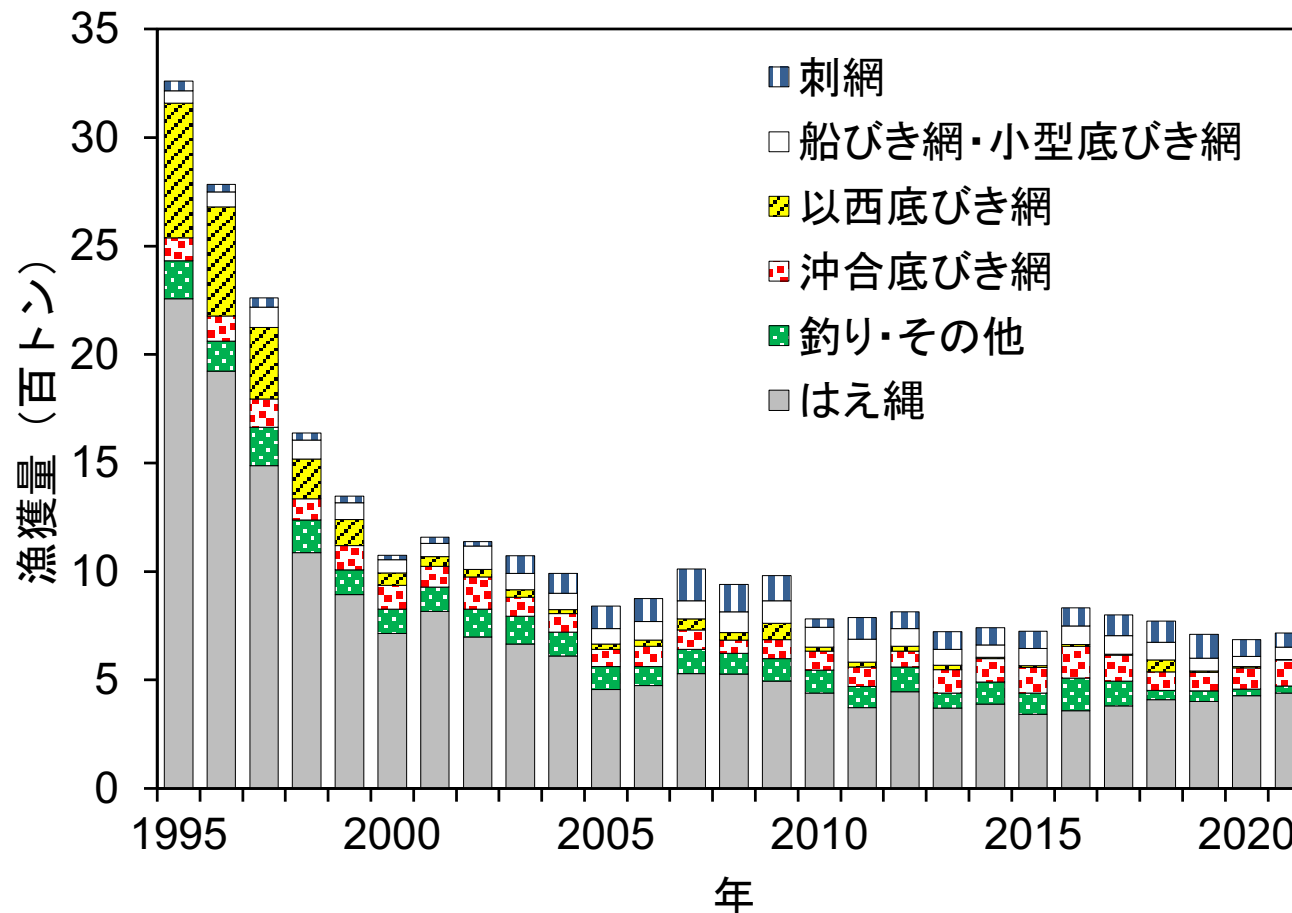


## 生物学的特性

- 寿命：雄11歳、雌9歳程度
- 成熟開始年齢：50%成熟全長は雌雄ともに4～5歳時に相当する
- 産卵期・産卵場：日本海南西海域で6～10月、対馬北東海域で7～11月、水深100～130 mの海域
- 食性：魚、甲殻類、多毛類、頭足類、貝類、棘皮動物
- 捕食者：底棲の大型魚類

- 日本海西部海域から東シナ海にかけて、陸棚上～陸棚縁辺域の水深80～130 mの海域が主分布域

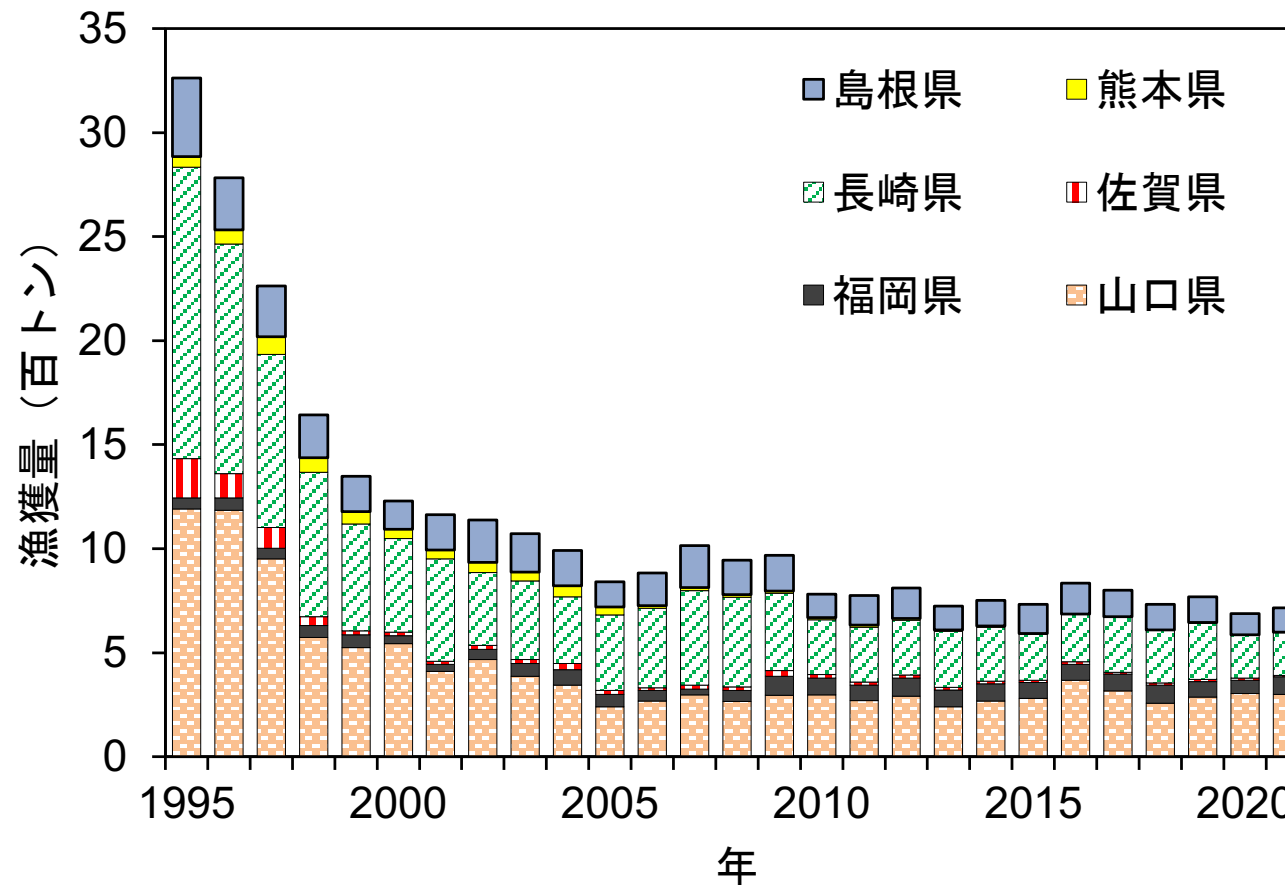
# 漁獲の動向①



※資源評価対象海域外である東シナ海陸棚上～陸棚斜面域での操業を含む

- 漁業の主体ははえ縄漁業（はえ縄）
- 2000年にかけて東シナ海におけるはえ縄が急減
- はえ縄および沖合底びき網漁業（沖底）の努力量は減少傾向

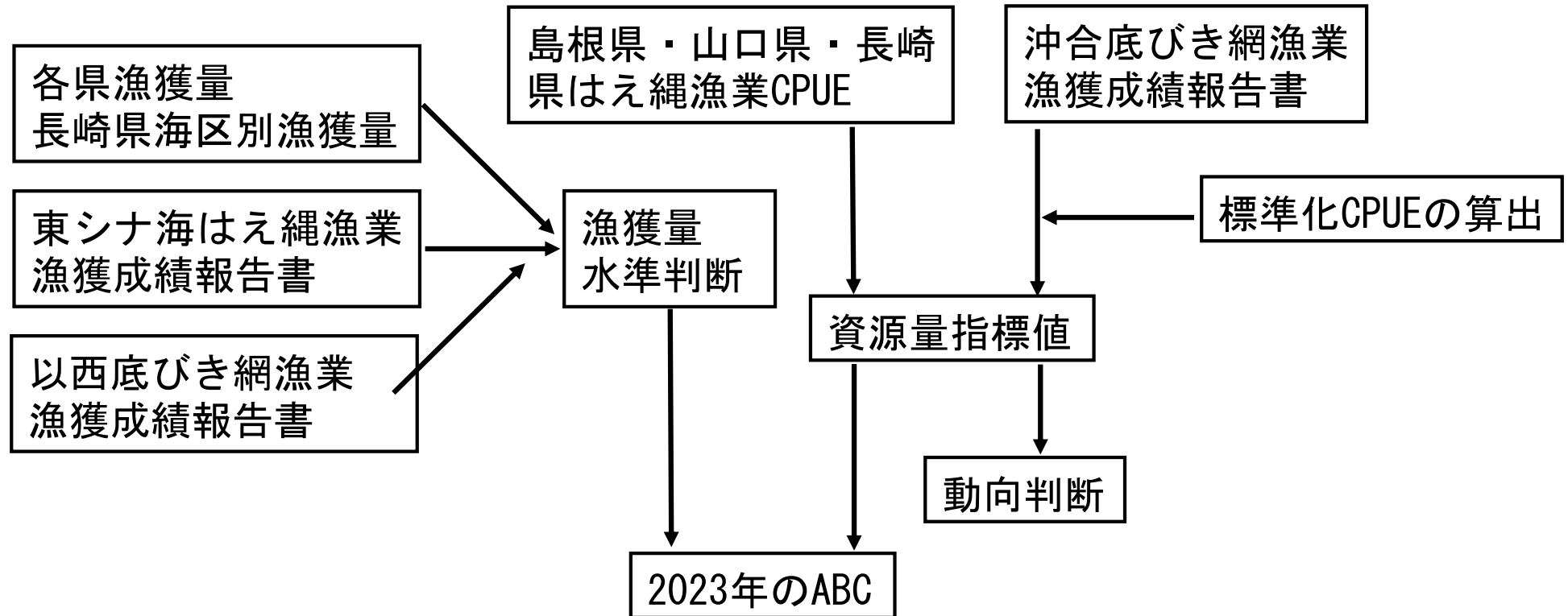
## 漁獲の動向②



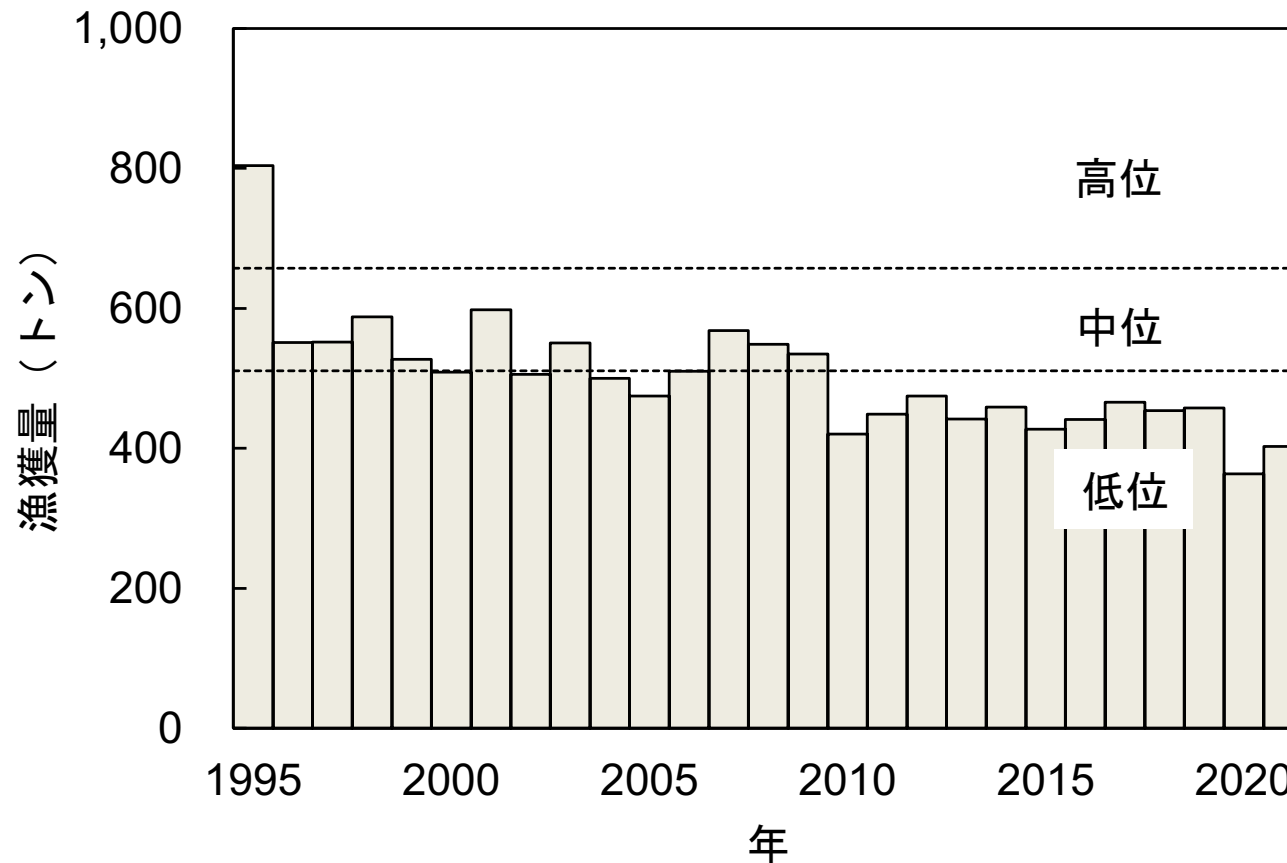
※資源評価対象海域外である東シナ海陸棚上～陸棚斜面域での操業を含む

- 2000年にかけて東シナ海における漁業の衰退により急減
- 山口県と長崎県が突出しており、次いで島根県が多い

# 資源評価の流れ



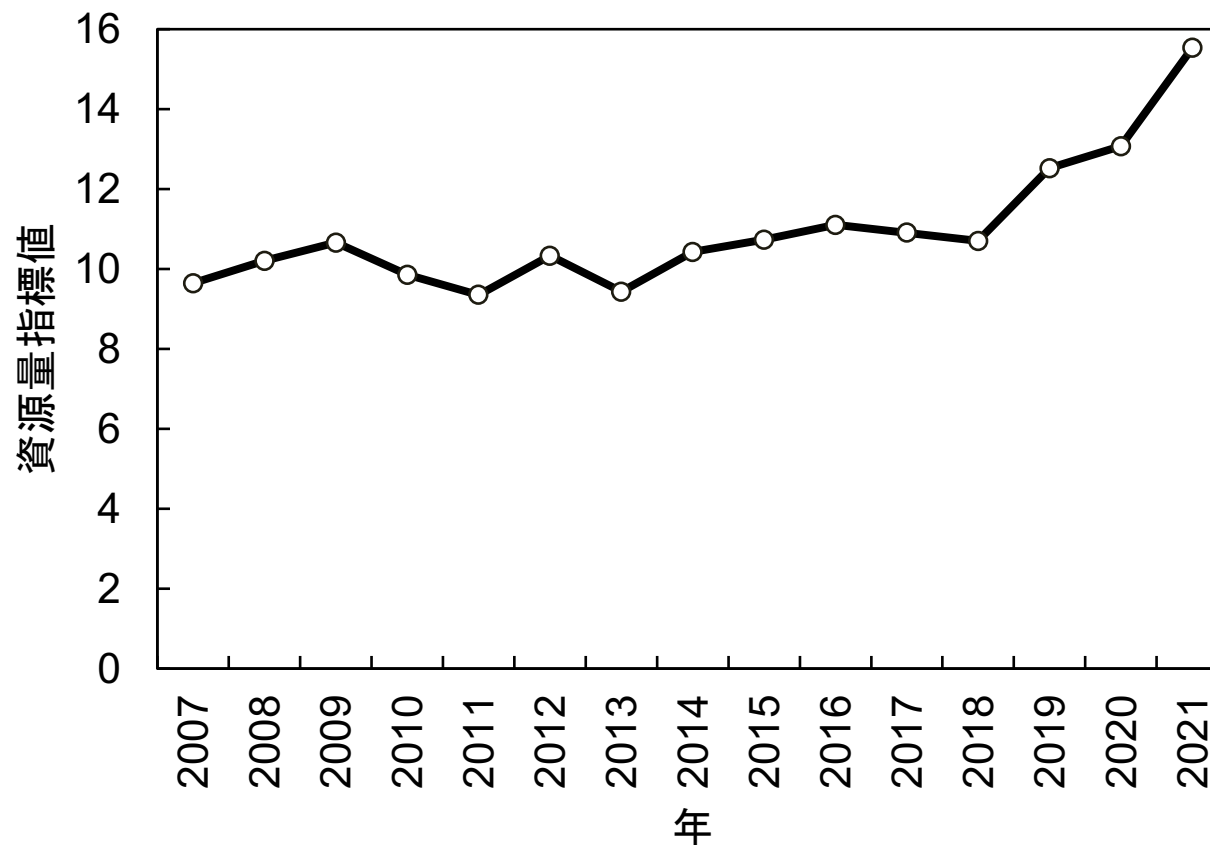
# 資源の動向①



※水準区分 低位／中位：漁獲量511トン、中位／高位：漁獲量657トン  
(漁獲量の最大値804トンと最小値364トンの間を3等分して算出)

- 1995～2021年の日本海西・九州北西部に限った漁獲量データが利用できる島根県、福岡県および長崎県沿岸域の漁獲量から、資源水準を判断
- 2021年の漁獲量は402トンであり「低位」

## 資源の動向②



- 沖底（2そうびき・浜田以西）の標準化CPUE、および島根県、山口県、長崎県のはえ縄のCPUEから求めた資源量指標値から水準を判断
- 直近5年間の資源量指標値の推移から「増加」

※CPUE：単位努力量当たり漁獲量

# 資源評価のまとめ

- 資源水準は低位、動向は増加
- 島根県、福岡県、長崎県沿岸域の漁獲量から資源水準を、資源量指標値の推移から資源動向を判断した

## 2023年ABC

管理基準	Target/ Limit	2023年ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値 からの増減%)
0.8・Ct・1.11	Target	505	—	—
	Limit	631	—	—

- ABC算定規則の2-1)により、 $ABC\ limit = \delta_1 \cdot Ct \cdot \gamma_1$ で計算
- $\delta_1$  : 0.8 (資源水準が低位である場合の標準値)
- Ct : 2021年の漁獲量
- $\gamma_1$  : 1.11 (資源量指標値の推移から算出)